

中村橋駅周辺まちづくり検討会

第2回美術のまち部会 議事要旨

[日 時]

令和5年2月28日（火） 18時30分から20時00分まで

[会 場]

サンライフ練馬3階 研修室第一・第二

[出席者]

部会長 秋元（美術館長）

委員 江村（商店会）、関口（商店会）、野島（町会 神藤氏代理）
須藤（区民）、前田（区民）、今田（区民）

設計者 平田、杉山、花輪、氏原

オブザーバー 荻原（専門調査員）、真子（学芸員）、藤原（学芸員）

[事務局]

美術館再整備まちづくり担当課 竹内、松本、中山、納谷

美術館再整備担当課 稲永、橋本、末田、竹清、根岸、小野

施設整備課 田中、小池、大内

文化・生涯学習課 渡邊

株式会社ユーマック(コンサルタント) 北山（フリーディスカッション進行役）、中原

[傍聴者] 0名

[議事次第]

1. 開会

2. 議題

- (1) 美術館・貫井図書館の改築等にかかる設計者の提案内容について（プロポーザル時点）
- (2) まちなみ整備に関するフリーディスカッション
- (3) 「美術のまち構想」骨子案について

3. その他

[配布資料]

- ・資料1 地域概況図、現況写真
- ・資料2-1 今後策定を予定している2つの構想のイメージ
- ・資料2-2 「美術のまち構想」骨子案の構成

1. 開会

- ・事務局からの事務連絡、部会長の挨拶を行った後、プログラムに沿って議事を進めた。

部会長	<ul style="list-style-type: none">・設計者に決まった(株)平田晃久建築設計事務所に、本部会にご参加いただいた。提案されたプロポーザル時点の考えをお聞きし、その後、まちづくりの視点で話し合いたい。・本日は、皆さんとのフリーディスカッションの時間を取ってある。夢を膨らませるようなアイデアなどご意見をいただきたい。
-----	---

2. 議題

(1) 美術館・貫井図書館の改築等にかかる設計者の提案内容について (プロポーザル時点)

- ・設計者からプロポーザル時点の考え方について、パワーポイント・模型を使いご説明いただいた。

事務局	<ul style="list-style-type: none">・設計者から説明いただいた。何か質問等があるか。
委員	<ul style="list-style-type: none">・私は去年、「角川武蔵野ミュージアム」(埼玉県所沢市)へ行ってきた。個人的に好きな美術館の一つである。フリースペースにある本は、誰でも手に取れるようになっていたが、車イスでは、限定された空間でしか本を取ることができなかった。・提案された美術館は、雰囲気として凄く好きなデザインである。できれば車イスでも本を手に取れるようなつくりにして欲しい。
設計者	<ul style="list-style-type: none">・車イスで本棚にアクセスできるようなことを考えたい。単にアクセスできるようにするのではなく、例えば、健常者と車イスのアクセス通路などは、統一的なデザインにして特別感がでないよう配慮したい。
委員	<ul style="list-style-type: none">・練馬区立美術館は有名であるため、23区内や他県など遠いところから車による来館者も見込める。新しい美術館では、自家用車によるアクセスや駐車場の整備はされるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・障害のある方の駐車場は設けるが、敷地内で駐車場等を整備できるスペースが限られている。美術館については駅から近い施設のため、一般の方の駐車場については想定していない。
設計者	<ul style="list-style-type: none">・自家用車で来館される方は、美術館から離れた場所に駐車してもらい、まちの中を歩いて美術館へ来ていただければ、まちの活性化につながりそうである。

(2) まちなみ整備に関するフリーディスカッション

- ・コンサルタントを進行役として、フリーディスカッションを行った。

コンサルタント	<p>(前回の第1回美術のまち部会資料2-2「アートを感じられる まちなみ整備の提案」の概要を説明。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“どこで何ができたらいいかな”というような、できるだけ具体的なお意見をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館周辺は建物が集まっているので、圧迫感を感じる。 ・美術館の中や外は良いデザインであり、緑を活かした、落ち着ける空間があったらいいと思う。例えば、三菱一号館美術館（千代田区丸の内）にある中庭（樹木や壁面緑化、モニュメント、カフェなどのある大人の空間）のようなイメージである。
コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の圧迫感への対応、緑を活かした空間や、まちなかの中庭のような空間づくりといったご意見をいただいた。 ・設計者の立場から、まちに対する評価や捉え方、良いところや直したいところなどあればご意見をいただきたい。
設計者	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街は、魅力的で特徴的なので、それを活かすような美術館としたい。美術館と商店街を繋ぐ“道”をつくりたいと考えており、提案では、“アート・コミュニケーションコリドー”と美術館の上層へ登る通路（富士塚から連想した登山ルートのもの）の連続性をポイントとした。 ・現在、中村橋の“道”は、地面が中心である。まちの魅力向上ため、まちの中に登れるような場所、まちが見下ろせる場所など、立体的な空間を提案した。 ・美術館を“山”のように登り、所々に小屋などのアートスポットとなるような、まちの中と同じような空間を、美術館にも形成したい。 ・美術館建物周辺への圧迫感の軽減については、一律に壁面を下げることは難しいが、部分的にポケットのような空間を設けて緑などを植えることは考えられる。また、美術の森緑地の緑は立派であり、それだけでも圧迫感は軽減できそうである。 ・緑については、“緑の島”みたいな屋上緑化などを考えているが、地面に植えるほどの大きな木は植えられない。緑やアートなどを自然な感じで散りばめるイメージである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の第1回美術のまち部会資料2-2「アートを感じられる まちなみ整備の提案」は、設計者が決まる前のイメージとして作成したものである。美術館の提案と前回資料と比べて、具体的なお意見をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前南口の広場は、アートな空間に再整備できないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅北側道路（駅から美術館へ行く通り）は、カラー舗装またはインターロッキング舗装などにできないか。 ・ 商店街のある中杉通りについては、都道から区道へ移管する方向が決まらな いと対応できない。 ・ 1年に1回（1月）の美術館で開催する小中学校の書道展（「練馬区小中 学校連合かきぞめ展」）では、区内全域から多くの人が集まり、商店街への来 客も増える。新しい美術館となり来館者数が増えれば商店街の集客数も増え るだろう。美術館がインパクトのある素晴らしい建築になれば、見に来る方 も増え、美術、図書館、建築の3つで知名度が高くなると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計者の美術館の提案は、曲線を使うことで“ゆったり”したものを感じさ せる。商店街は直線のイメージであるため、美術館の曲線によりまちなかに ゆったり感ができそうである。 ・ 美術館とまちの道路は“一体感”のあるデザインとなりそうである。商店街 として、どうやって一体感を演出したらよいか考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「富士塚」のような建築とする提案について。「富士塚」とは、昔、富士山の 参詣に行けない女性（昔は女性の入山は禁止）や老人、子どものためにつく られたもの。富士山を信心するため、富士山に登る代わりに「富士塚」をつ くり登ったようである。そういう意味では、女性や子ども、ベビーカーが入 りやすいつくりを期待したい。富士山みたいな建築ができればおもしろいか なと感じた。 ・ 駅前南口の広場にも、赤ちゃんがゴロゴロできるような芝生を設けてはと思 う。 ・ 「まちおこし」としてのアートではなく、まち全体からアートを応援するよ うな、次世代の人を生み出すような感覚で、まちづくりができないかと思っ ている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、昔ながらの商店街が好きである。あのまちなみを残しつつ、活かして いきたい。 ・ 商店街を通ったときに、入りたいお店が何店かあったが、道と店の間に段差 があり、車イスでは入ることができなかった。障害者がふらっと入れるよう なつくりにして欲しい。
コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっとした緑のスペースや、休憩できるスペース、美術館の企画展への案 内板のあるスペースなど、小さなスポットがまちなかに散らばっていると楽 しいまちになると思われる。 ・ 商店会として具体的な対応は難しいかもしれないが、例えば、商店街の空き 店舗を地域に開放するような使い方はできないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の空き店舗については、練馬区産業経済部経済課の補助制度である

<p>コンサルタント</p> <p>委員</p>	<p>「商店街空き店舗入居促進事業」の助成が受けられる。例えば、商店会で空き店舗を借り上げて、休憩所や集いの場所にして、美術館・図書館との連携からアートを飾ったり本を置いたりするようなことはできるだろう。初動期には賃借料の補助金が出るが4年目以降は無くなることから、商店会で賃借料を確保するため、例えば、お茶やお菓子を販売するなど運営していくことも考えられる。他の商店会でも行っていることではあるが、実際にできるかは分からない。立地については、比較的賃借料の安い、裏通り沿いが現実的と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中杉通り沿い立地が難しいのであれば、例えば、補助 133 号線沿いの民間駐車場などを美術館の駐車場として借りて、美術館と駐車場をつなぐルート上の物件などを借りることも考えられる。 ・小中学校へは自動車で来る方が多く、自動車をコインパーキングに停めてから徒歩で商店街を通り抜け小学校へ行っている。ただし、周辺の民間コインパーキングの実態は、建築等の条件が整わないため、暫定的に駐車場として利用しているのが現状である。例えば、(開通した補助 133 号線) 北側にあるマンションなどは、建築以前はコインパーキングであった。 ・商店街に植物のプランターなどを置くのは良い提案であると思う。事例として、大泉学園駅周辺の商店会で開催している「ボタニカルアート展」(開催は11月30日～3月31日、店舗によって異なる。)では、駅周辺の107店舗で植物画の複製品を展示している。
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中村橋駅から貫井図書館へ来たときは、“寄り道”をして帰りたいが、良い場所が少ないため直接帰宅している。“寄り道”をしたくなるような場所が何か所かできるとうれしい。 ・まずは地道な取組から行ってみては。例えば、スタンプラリーなどのイベントを行うことで、一度商店街をまわってもらおう。そこで良い場所に出会えれば、リピーターとしてまた行こうと思ってもらえる。 ・約 20 年近く、飲食店などのサービス券(蕎麦 100 円引き、ワイン 1 杯 10% 引きなど)を美術館に置かせてもらい、美術館の帰りに商店街へ寄ってもらおう取組はしている。 ・商店会だけの取組ではなく、例えば、千川通りの桜の開花時期に合わせてまち全体でイベントをしてはどうか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電車から、新しい美術館が良く見えると思われる。美術館が新しくなることで、来街者が増えることを期待したい。 ・中村橋駅周辺の昼間の時間帯は、保育園などのお子さんがたくさんいる。駅前南口の広場などに、子どもたちがゴロゴロと座れるような芝地などをつく

	<p>ってみてはどうか。なお、過去にベンチを設けたことはあるが、問題がおきて、パイプベンチ（もたれるように座るベンチ）に変更された経緯はある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハリー・ポッターの施設（「ワーナーブラザーズ スタジオツアー東京メイキング・オブ ハリー・ポッター」）のオープンに合わせて、商店会でハリー・ポッターのフラッグを作り、約 1 年間は掲示しておく予定である。中村橋からハリー・ポッターの施設までは、歩いて 20 分程度（直線で約 1.3km）と徒歩圏内である。今後、補助 133 号線が開通すれば連携できそうである。 ・美術の森緑地の中にもアートのものを置きたい。 ・商店街にある街路灯を、ラッピングするなどデザインしたい。 ・20 年ほど前に、美術館のワークショップで子どもたちに絵を描いてもらい、展示したことはある。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・提案の「アート・コミュニケーションコリドー」という、まちに出ていく考え方は面白いと思う。恒久的に設置するものと、それにアクションを起こすテンポラリー（一時的なもの）が共存するイメージを持った。 ・サイン計画については、統一感を持たせるためにも、じっくり考えていくのが良いと思う。まちの事業者も含め、それぞれが自由にサインを作成してしまうと、雰囲気や景観がバラバラになってしまい、後で外せないことなども懸念される。 ・提案されている美術館にはカフェがあるが、すみだ北斎美術館はスペースが限られていてカフェはない。代わりに展覧会の企画に併せて、美術館に近いカフェや飲食店が独自にメニューを考えて提供して、来館した方がまちなかへ食べに行ってもらえるような仕組みを何回か行ったことがある。美術館とまちをつなげる一つの手法と思われる。 ・美術館を山に見立てて登っていく提案について、空間がいろいろな方向に開かれていることから、新しい視点を獲得できて、インパクトのある眺めが期待できそうである。美術館を登っていくレベルごとにまちの眺めは変化するだろうし、まちなかに現れるであろうアートのものが、回遊ルート上の風景としてどう生まれるか楽しみである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい美術館の高さは何階建てになるのか。
設計者	<ul style="list-style-type: none"> ・20mの高さ制限のある地域であり、提案は高さ 20m程度で 4 階建てである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者にとっては、少しの段差でも視認しにくく、非常に危ない。新しい建物でも、思わぬところで危ないと感じる部分がある。 ・段差を自然に上るようなデザインとして欲しい。
設計者	<ul style="list-style-type: none"> ・難しそうではあるが、段差に対する安全性確保について、空間として一体感のあるデザインとして考えてみたい。

<p>コンサルタント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館長にお伺いしたい。地中美術館や金沢 21 世紀美術館などと連携したまちづくりのご経験から、まちづくりを進めるにあたり、本地域にとって大事なことなどご意見があれば教えてほしい。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様のご意見を伺ってみた感じでは、まちの回遊性や魅力をどのように作っていくか、まちの中で人々の動きをどう変えていくかという視点が大事だと思う。具体的には、まちと美術館をつなぐ“道”は、人々が留まり休めるような空間として通路化していく。商店会、小学校、その他の組織がワークショップやイベント等を行う場として美術館を活用し、アートがまちの中に立ち現れるよう仕掛けていくなど。 ・まちの皆さんがいっしょに進めていくことが大事である。事前に整理した課題などに対し、まちの皆さんが提案できるようなワークショップやイベント等によりコンセンサスを図っていくなど、ワークショップやイベント等により皆さんでいっしょにプランなどを作っていくとよい。美意識や価値観を育てていきたい。いろいろな方々が、それぞれの思いを持って参加していただき、受け身ではなく、自分達から作り出していく場所、自分達にとっての居やすいまちなど、そういう事を話し合っていく場になっていくといい。 ・設計者が提案している“Shelf”と“Shelter”の間、“Shelter”と“Shade”の間の空間は、人々の動きを変えつつ、皆さんの価値観の共有化を図っていける場所になると思われる。
<p>コンサルタント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いまちづくりのためには、地域の方々が自分達に誇りを持って頑張れるように、また来街者に対して“おもてなし”ができるような進め方が大事である。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、まちづくりを進める上で、いくつか場所の候補が挙がっている。 ・“場所”というのは、考える上での出発点になりやすい。例えば、具体的にどの場所を優先して検討するのかを考えておいてみてはいかがか。
<p>コンサルタント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計者から提案のあった“アート・コミュニケーションコリドー”を中心に検討を進めるのが良いのではないか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進めやすいところから検討を行うことが望ましい。都道である中杉通りなどは、現時点では思い切ったことは難しい。 ・今回のフリーディスカッションでは、いろいろなご意見をいただいた。 ・来年度もいろいろご意見をいただきながら、関係部署とも調整しつつ、まちづくりを進めていきたい。

(3) 「美術のまち構想」骨子案について

- ・事務局から資料2-1、資料2-2の説明。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術のまち構想」骨子案を作成する上での考え方を説明する。 ・具体的な内容については来年度に検討していきたい。 ・構想の策定後も、区として具体的にどのようなことを行っていくのか検討していきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、区では2つの構想作成を予定している。一つは令和7年度以降策定予定の「駅周辺まちづくり構想」、もう一つは令和5年度策定予定の「美術のまち構想」である。 ・「駅周辺まちづくり構想」は、広域において住みやすいまち、安全なまちなど、よいまちにするための方針をまとめる。 ・「美術のまち構想」は、駅、美術館、商店街の動線において「アートを感じられるまち」を目指す方針をまとめる。本構想は、目標、方針、取組で構成し、地域の皆さまの声を伺いながら、肉付けをしていく。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術のまち構想」では、まちなみの整備やまちなかにおける活動など、個々の事象を別々に記載するだけでなく、価値観を共有できるものとしたい。 ・例えば、「目標」の設定については、検討のスタートとして「アートを感じられるまち」から始まったが、本日の皆さんの意見を聞いた感じでは、自分たちで生み出していくようなイメージ、さらに一歩進めて自分たちで育てていくような、「アートを育む」のほうがか合っていそうである。 ・美術館が来年度予定している“まちなかの活動でアートを感じる”実験的な教育普及活動についても、連携していけるよう構想などに位置付けていきたい。
設計者	<ul style="list-style-type: none"> ・議論や言葉だけでは皆で価値観を共有するのは難しく、アクションを起こすことで価値観の共有化はしやすくなる。最近のまちづくりでは、社会実験的に「とりあえずやってみる」ような事象が出てきている。例えば、試しに広場を芝にしてみても、問題を見つけ、解消していくようなことなど。 ・とりあえずやってみて、それを議論に取り入れていくような会などが作れるとよいと思う。

3. その他

- ・来年度予定などの説明。

オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館では、来年度、まちに出て行く事業を、春、夏、秋、冬の年4回開催することを考えている。 ・一年間の集大成として、美術館から美術の森緑地までエリアを広げて、多くの方にアートにふれる機会をつくりたいと考えている。商店会や関係者の皆
--------	---

	<p>さまには、場合によっては、出店をお願いするなどご協力をお願いしたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の部会で今年度の検討は終了となる。委員の皆さまには、検討会にご協力いただき感謝申し上げます。来年度以降も引き続きご協力いただければと思う。 ・次回は、令和5年5月11日に第2回全体会を開催予定である。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、いろいろな意見をいただき、さらにまちづくりのイメージを膨らませられた会であったと思う。設計者が決まり、美術館のイメージが見えてきたことで、話が広がった。ものづくりを進める上で良い循環である。 ・美術館の建替えにより、美術館の拡張、図書館との一体化とともに、アートがまちへ溢れ出し美術館にまちが入り込むような変化が期待される。 ・そのためには人が大事である。専門家に任せるだけでなく、区民の皆さんが、自分のこととして事業などに関わっていただけるようにしたい。 ・今年度はいい感じでまとめられた。私は3月をもって館長を退任するが、皆さんには今後ともよろしくをお願いしたい。

以上